

日本聖公会
**ウィリアムス
 神学館ニュース**

2017年
 第97号

The Bishop Williams
 Theological
 Seminary NEWS
 日本聖公会
 京都教区
 発行・編集人
 吉田雅人
 〒602-8011
 京都市上京区烏丸通
 下立売上る榎町 380
 ☎ 075(431)5406
 FAX 075(431)5445
 Williams@muc.
 biglobe.ne.jp
 寮 ☎ 075(431)5408

完成してはいけない

主教 高地 敬

聖書の中に「完全」という言葉が何度か出てきます。神様の業を「完全」といっているところと、神様のようにな者となりましようと呼び掛けているところがありません。パウロは「完全な者」という言葉を使いますが、その直後に到達したところに基づいて進むべきです」とも書いています（フィリピ第3章）。理想的な姿はこうだけれども、現実はどうだ、その現実を知った上で少しでも前に進みたいということでしょう。

私たちはいつもこの理想と現実の間でさまよっているように思います。神学館ではいい聖職、いい牧会者を目指して研鑽しますが、理想的な姿に達して卒業するわけではありません。理想的な姿では決してないけれども、一定の研鑽を積んで現場に出ていく。そこで自信を持つことは大切なのですが、自信を持ちすぎて高慢になっても困ります。一方、謙虚で

あることは常に必要であるけれども、それが高じて卑屈になっても困ります。

「大器晩成」という言葉は老子の言葉だそうですが、立派なものができるときは時間がかかるという意味ではなく、未完成であることこそが立派なものの特性であるというのが本来の意味のようです。自分こそ大器であると言える人の底の浅さを見抜き、不足や欠けがあることが人間の広さを生み出すことを知っているからこそ「大器晩成」という言葉なのだろうと思います。

私たちはより良い聖職・牧会者になるうと励まなければなりません、完全な聖職・牧会者になることはできません。ですから、完成することはあり得ませんし、完全になつてしまつてもいけません。自分が完全であると考えた瞬間、あるいは、自分の考えは全く正しいと思つた瞬間に、私たちは唯一完全である方と自分を対等としてしまうことになり得ます。これは神様を冒とくしていることになると言つたら言い過ぎでしょうか。学ぶ者も教える者も、でき得る限りの

努力をしなければなりません、結果は人それぞれです。自己評価が高すぎることもあるし、低すぎることもあります。いずれにせよ自分には大きな欠けがあることを知っていることができればと思います。欠けを持った自分であるからこそ、神様の恵みが豊かに与えられていくのですから。

さうたかし 本館理事長 キリシア語担当



秋になると思い出すことがあります。神学校を出て、初めて赴任した教会での秋の日曜日の奨励の準備はいつも緊張して何を話せばいいのかと、回を重ねることに、その悩みは深まっていけばかりました。そんな秋のある日、神学校の入学前に、よく行っていた喫茶店に久しぶりに行くことがありました。その喫茶店は詩人の方がしている喫茶店で、言葉をつむぐお仕事をしている方なら、なにか良いアドバイスをいただけるのではと、おもわず日頃の悩みの話をしてみました。すると、この世界は神さまが作った世界なのに、語るべきことのヒントなんてどこにもありません。それを見つけて、どこか自分の一番の課題を突きつけられたように思いました。技術的なことや知識も大切ですが、それよりも前に、普段の生活の中で何を感じているのか、なにを伝えようとしているのかということも、もっと大切なことだということに立ち返る時をいただいた出来事でした。

思い返すたびに、いつもそのとおりで、教会の役割も、この世界は神さまの思いの中にあることを、いつも語り続けることにあるのだと思います。

(鈴木 恵)

新入生自己紹介

春の神学館二コース96号でもお知らせしましたように、去る四月五日(水)、二〇一七年度ウイリアムス神学館入学礼拝が、京都教区主教座聖堂 聖アグネス教会で行われました。仲宗根遼祐さん(沖縄)が三年間の本科生として、山本直樹さん(大阪)が教区派遣科目職講師(年間)として、それぞれ学びをされます。そのお二人に自己紹介をしていただきます。

イエス様の救いを伝えたい

ウリエル 仲宗根遼祐



縄から離れての京都での暮らし、慣れない事も多く、初の頃は緊張と不安でいっ

今年の四月に神学校に入学した沖縄教区のウリエル仲宗根遼祐です。沖

ばいでした。ですがウイリアムス神学館の先生や先輩たちに支えられ、今では楽しく学びの日々を送っています。

私が神学校に入学することを決めたいきっかけは、私自身過去に辛い事があり、その時にイエス様に救ってもらい、イエス様の救いを伝えるために司祭を目指すことを決めました。そのため神学校で多くのことを学び、良い司祭になれるように現在頑張っています。

神学校に入学するにあたり、沖縄教区の方々、母教会の宮古聖ヤコブ教会の皆様が大変お世話になりました。私を神学校に通うことが出来るまで鍛え、助けてくれました。今私がウイリアムス神学館で学びが出来るのは、主の導きと支えてくれた皆様のお陰だと心から感謝しています。

私に期待し、そして支え祈ってくれている人達のためにも、これから三年間たくさん勉強し、良い司祭になれるよう努力していきます。また入学したばかりの未熟ものですが、この三年間の学びが良い実を結ぶようお祈りください。よろしくお願ひします。

なかそねりようすけ・沖縄教区聖職候補生

全身聖公会

エレミヤ山本 直樹



この四月からウイリアムス神学館で神学生としてお世話にな

っている山本直樹です。これまで他教派・福音主義教会の地方の小さな教会で牧師をしておりましたが、六年程前からパートナーが不治の難病に罹り障碍を巡る考えの違いからその教派を退会、聖公会へ転会しここ三年程その介護に追われる日々を送っていました。介護の生活を送る中で宣教困難な時代に教会と障碍者の関係がどうあったらよいのかを考え聖職志願に至った次第です。

入学して半年が経過しようとしていますが神学館生活での大きな発見は朝七時から始まり昼と夕方と日に三度行われる礼拝に毎回緊張感を持って臨んでいることです。あすの朝の礼拝には絶対遅刻しない」と毎晩なかなか寝付かれない夜を過ごしつつ。教師、上級生の皆さんから指導を受けたことをたくさん書き込んで祈禱書は春と比べる(次頁三段目に)

夏期実習報告

～今年度は「愛の園」で～

9月4日(日)～8日(金)までの5日間、和歌山県西牟婁郡上富田町にある「神愛会愛の園」の協力で行われました。

私たちは旧修道院「聖マリア院」と聖フランシス祈りの家で宿泊させていただきました。短い期間でしたが、「武藤直」施設長をはじめ、職員の皆様、入居者の皆様に受け入れていただき、有意義な時を過ごすことができました。感謝と共に2・3年生の実習を通しての気づきを報告してもらいます。

最後の夏期実習

ヒューム ユーワン

二〇一七年度の二学期が始まる直前にウィリアムス神学館の夏期実習が和歌山県にある「特別養護老人ホーム愛の園」で行われました。神学生の四人は三日間、朝から夕方まで傾聴ボランティアとして愛の園の入居者の方々とふれあい、様々なお手伝いもしました。

愛の園での実習が始まる前に、武藤直二園長は「愛の園」について紹介をし、



に派遣されましたので、入居者の方々と知り合いになることが出来ました。

私がユニットに到着した時、入居者の方々は朝食を食べておられました。朝食が終わると、二階のロビーで全入居者の方々はカラオケと体操をされました。それらのことに参加するのは自由で、入居者にとっては交流のような機会となります。カラオケと体操が終わった後は、昼食を食べておられました。午後には、私が入居者の方々と対話をしたり、「一緒にテレビを見たりしました。入居者の方々が夕食を済めば、私のこの日の仕事は終わりになりました。毎日、私たちの「愛の園」でのご奉仕は午前七時三〇分から午後六時三〇分までなので、神学生の皆は疲れたのだと思います。

この夏期実習はとても面白く、特に、私にとっては、入居者の立場から老人ホ

「愛の園」の沿革や特徴を分かりやすく説明されました。「愛の園」ではユニットケアという手法を用いていて、私は実習の三日の間に同じユニット

** (2頁から) とかなり痛みました。祈祷
 ** 書の文字が自分の体に深く沁み込んで
 ** いって欲しいと願うものです。
 ** これからこの神学館と出席教会での
 ** 様々な体験を通して何度も失敗し後悔
 ** し葛藤しながらもそれ以上にイエス様
 ** の恵みと支えが確実に与えられること
 ** を確かめていきたいと希望するもので
 ** す。よろしく願いいたします。
 * やまもと なおき・大阪教区神学生

ームでの生活をさらに理解できたと思えますので、非常に貴重な学習体験だったと思います。武藤直二園長、愛の園の職人と入居者の皆様、大変お世話になりました。本当に有り難うございました。

ひゅーむひゅーわん 大阪教区聖職候補生



信頼こそ礎

バルナバ 永野 拓也



私が夏期実習で学んだことは、コミュニケーションについてである。その理由は、入居者と職員の方々との関係性が印象的だったからだ。ある時、私は一人の入居者の方の食事介助をさせていた。いた。その方は、なかなか自分で食事を口に運ぶことができないのと同時に、言葉が出てこないことが多いと思っていた。けれど私は、人の口に食事を運んだことなどなかった。結局、食事はあまり進まず、職員の方と交代することになった。すると、入居者の方は残っている物をどんどん食べていくのである。そして、同時に「もうちよっと。」や、「もういい。」という言葉が聞こえてきたのであ

った。私はあまりの違いに驚いたと同時に、あることに気づいた。それは、食事介助の技術の問題だけではないということだ。何故なら、そこには信頼関係があるように感じたからだ。実は、実習の中で印象に残っているのは、共有スペースで練り広げられる入居者の方と職員の方たちとの関わりであった。時には笑い声が溢れ、時には多くを語ることなく対話が行われていた。その

延長線上に、私が経験した食事の場面があったのだろう。一方で、私は初めての体験に恐れを抱き、入居者の方の口の上に食事を運ぶことしか考えていなかった。日々の生活の中で、私はどれだけ人と対話できているのだろうか。人との出会いに耳を傾けることの大事さを考えることのできた実習であった。

ながのたくや・神戸教区神学生

期会のキリスト・イエス

ルカ 宮田 裕三

特別養護老人ホーム・愛の園での傾聴ということでしたので、特に身構えることなく、今まで経験してきた、老人ホームに入居されていたり、自宅療養されていたりする方々との交わりと同じだろいうつもりでお伺いしました。実際は、認知症が進んでいる方々との交わりでした。今までも認知症を

お持ちの方との接触はありましたが、日々交わるといふ経験は初めてです。同じ会話の繰り返しや、実現できない事への期待などを話され、職員の方々は上手に会話しますが、会話のさじ加減がわか



らず終始ニコニコするしかありません。目を重ねるごとに、色々な話を伺い、それぞれの人生の一端を見せていただきました。人生を重ねている方々ですので、その内容は時に愉快なものから示唆に富んでいるものまで、緩やかな空気の中での刺激的な時間でした。祈りと黙想と人との出会いの中からキリスト・イエスを探す実習でした。

認知症が進み、会話という会話が出来ない方におられるキリスト・イエス。忙しく働かれている職員の方々一人ひとりにおられるキリスト・イエス。そして、私を通して働かれるだろうキリスト・イエス。それぞれの「挙手・投足・言葉の一つ一つに目を開き、耳を澄ませて、神様からのメッセージを感じられるように丁寧な時間を過ごしてきました。

最終日の別れ際は、いつものように澄まして部屋を出てきたのですが、エレベーターホールにお二人の方が挨拶に超越して下さいました。また「今度」という挨拶ではなく、お互いに「ありがとうございました」という挨拶でお別れいたしました。今に生きるキリスト、一期一会を大切にされた夏期実習でした。

みやたゆうぞう・神戸教区神学生



聖職叙任おめでとございます

卒業生の聖職按手式が左記のように行われました。今後のお働きの上に神様の御導きをお祈りいたします。

六月一〇日(土)、横浜教区主教座聖堂 横浜聖アンデレ教会)にて、司祭按手式が行われ、サムエル北澤 洋執事が公会の司祭職に叙任されました。

七月一日(土)、京都教区主教座聖堂 聖アグネス教会)で執事按手式および司祭按手式が行われました。

アンデレ江渡 由直聖職候補生が、公会の執事職に叙任されました。



アントニオ出口 崇執事が、公会の司祭職に叙任されました。



神学館の一学期

- ☆ 4月3日(月)、入寮日
- ☆ 4月4日(火)、ウイリアムス主
教記念碑清掃
- ☆ 4月5日(水)、入学礼拝
- ☆ 4月6日(木)～8日(土)、
オリエンテーション・シヨソ合宿
学期始めリトリートを兼ねる)
- 黙想指導・竹林徑 一司祭、
宇治カルメル会)
- ☆ 4月11日(火)、一学期授業開始
- ☆ 4月16日(土)、教会実習開始 (1年生)
- ☆ 4月17日(日)、教会実習開始 (2・3年生)
- ☆ 4月22日(土)、いまさら聞けない!?
- キリスト教講座開講
聖公会「つて?!」 岩城 聰司祭)
- ☆ 6月7日(水)、神学館ニュース発行
- ☆ 6月23日(月)、17年度第一回理事会
- ☆ 7月1日(土)、一学期授業終了
- ☆ 7月4日(火)～8日(土)、
試験・レポート提出期間
- ☆ 7月9日(日)、一学期教会実習終了
- ☆ 7月11日(火)～12日(水)、補講・面接
- ☆ 7月13日(木)、一学期終業礼拝
- ☆ 7月15日(土)、出寮日
- ☆ 7月28日(金)、一学期末教授会

プリスカ中尾貢三子執事が、公会の司祭職に叙任されました。



モーセ石垣 進執事が、公会の司祭職に叙任されました。



ウイリアムス神学館叢書Ⅱ
 弁言葉の奉仕(仮題) 黒田裕 著
 ただ今、発行準備中です。ご期待ください。

寄付・献金のご報告

左記の教会・団体及び個人の皆様から直接ウイリアムス神学館経常会計に「寄付いただきました。敬称は略させていただきます。なお、神学館後援会に「寄付くださった方は、「後援会報告」を、ご覧ください。

- ◇ 2016年度のご寄付は以下の通りです。
神戸教区(2件)、京都伝道区信徒伝道協議会、柳原嘉子、聖オルバン教会 (2件)、京都教区小学生キャンプ、新宮聖公会、桑原倫子、内田智子、加納泰、林義人、井上るみ子、下田屋一朗、浜本亜矢子、聖アグネス教会、守口復活教会、大阪聖愛教会、木村能子。 計 五〇二、一九五円
 - ◇ 2016年度分の協力献金は以下の通りです。
中部教区、大阪教区、神戸教区、京都教区 計一、二〇〇、〇〇〇円
 - ◇ 例年のように管区事務所より 神学校のための「祈祷日」献金 一、二〇、〇〇〇円を受領しました。お献げくださいました全国の教会の皆様には感謝いたします。
 - ◇ 神学館後援会より三、三五〇、〇〇〇円の寄付金(献金)を受けております。この詳細については 神学館後援会報告NO. 51「をご覧ください。
- 以上、心から感謝しご報告を申し上げます。